

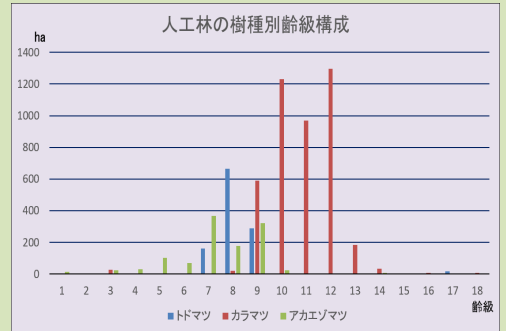
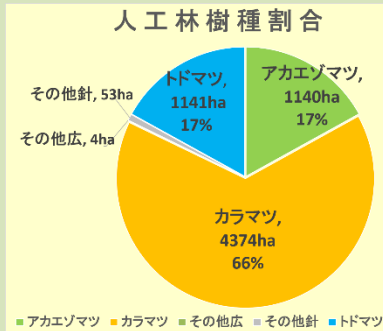
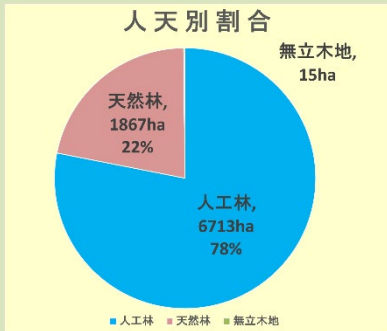
格子状防風林における施業方法等の検討 ～防風林の指標を目指して～

根釧東部森林管理署 川北森林事務所 後藤 正等

研究の背景・目的

当地域の特徴的な森林である格子状防風林については、主伐期を迎えつつあることから、防風林としての機能を維持しつつ、着実な更新と一部伐期の延長による齢級構成の平準化、安定した木材の供給、多様で健全な森林づくり、景観等へ配慮した管理経営が求められています。

また、こうした取組の中に平地林であることを活かした低コストな施業を行うことにより、安定した木材の供給に努め、民有林施業の指標となることを目指すとともに、地域の方に身近な森林として親しんでいただくための方策を検討していく必要があります。



今後の取組事項

1. 森林施業

- 1) 複層伐における伐採幅・伐採率・伐採方向の検討
- 2) 一括した土場・路網の整備
- 3) 地拵え箇所を活用した地がき更新の検討
- 4) 大型機械地拵えで剥ぎ取った表土層及び末木枝条処理方法の検討
- 5) 低コスト及び軽労化を図るための下刈り回数の削減の検討
- 6) 樹下植栽地における今後の施業の検討
- 7) 複雑になっている小班の整理

◎具体的取組

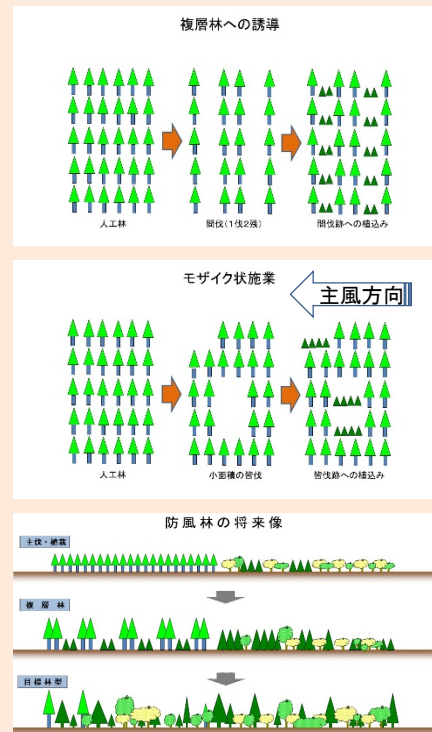
- 主風方向に考慮した小班にしばられない伐採方向及び伐採率
- 大型機械地拵えや地掻き箇所での剥ぎ取った表土を活用した更新
- 施業が行いやすい小班の統合及び分割
- 問題点の洗い出し

2. 地域連携

- 1) 地域共有の財産として有する多面的機能に関する啓発
- 2) 地域の木育やエコツーリズム等への活用
- 3) 人里に存在する平坦でまとまった森林としての活用
- 4) 観光資源、及び隣接農家へも配慮した植栽樹種の検討

◎具体的取組方法

- 農業者を含めた地域関係者に格子状防風林の意義をPRするとともに地域と共存できる防風林の取扱いについてコンセンサスの形成
- 地域の要望に応えられるメニューの作成



これからの課題

格子状防風林は、防風林としての機能はもちろんのこと、平地林として循環的な森林施業としてのポテンシャルを有しています。今後の施業として、地域の観光資源としての景観的配慮も必要であり、また、希少野生動物の生息地・移動経路(緑のコリドー)として期待されている面もあることから、齢級構成の平準化を念頭に、これらを総合的に勘案した適切な管理経営を行っていく必要があります。

一方で、隣接する農家等からは農家の支障となると捉えられている面もあることから、格子状防風林の有する多面的機能について、地域の関係者の理解の醸成に取り組んでいくことがこれからの重要な課題です。